

定額給付金をどう活用するか

町長…町内での消費拡大に活用します



芳賀 清 議員



町を元気に、ひなまつり

定額給付金の支給が決まったが、町の活性化にいかす手立てはないか。町長 定額給付金は、早急に給付して、消費拡大

山形県知事がかわったが、県との連携は。町長 吉村新知事は、対話重視の政策にあり、亀井田橋の架け替えなど必要なインフラ整備のために積極的に働きかけていきます。

世界的な不況の中、雇用不安や消費の減退が予想されるが、元気の出る町独自の対策はないか。町長 100年に1度といわれる大不況は、町民所得に直接影響し町税等の財源にも波及してきます。町単独で解決できる限界もあるが、国の二次補正事業などを活用し、活性化をはかっていきます。

町を元気にする施策は

などに資していきます。大事なことはこの原資を町外に出さないように、町内商工業者に創意と工夫を凝らした取り組みを期待します。

統合中学校の開校がまじかになったが、町民や町出身者に開校への支援や協力要請などは。町長 来年4月開校予定で進捗しています。開校は町民全体の喜びであり、このような大きなプロジェクトを機に、町民の皆さんが、今後にも明るい展望を抱けるように内容を充実するため、多くの方々からのご支援を受けられるように努めます。

地域づくりの原点はこだわりと人づくりといわれる。やる気・勇気・本気で「がんばろう大石田」を提唱していくべきでは。町長 今まで町民一体となつて取り組んできた「そばの里」づくりは、交流



不況で混み合うハローワーク



遠藤 宏司 議員

町民には実利を、税と税外負担の軽減を

政府の「構造改革」や「貯蓄より投資を」という政策が、雇用の崩壊や大不況につながったのではないのでしょうか。今政府が進める景気対策や雇用対策を町民に実利をもたらすものにすべきではないか。町でできる不況対策は国保税や介護保険料など医療費や教育費などの負担を軽減することであると思うがどうか。町長 国の二次補正でできる工事は極力町内業者へ発注したい。今後の交付金の使途は離職者の救済を第一義的に考えて、総合的な景気対策となるよう検討します。受益者負担は必要最低限を基本に、相互扶助、

大不況のもと町民のくらしを守る行政を

町長：二次補正は町内業者へ発注したい

公平性を原則とする考えです。

流雪溝整備は説明を十分にし、共感を得ながら実施すべき

これまでの冬期間の暮らしを根本から改善する町長の思いが、十分に伝わっていないのではないのでしょうか。流雪溝整備が具現化してくると、自宅前はどうなるのか、負担はどうなるのか、疑問や不安が出てきています。実施設計・詳細設計がでてきたところで、担当者だけでなく町長も出かけて説明する考えはないか。町長 町内全域で雪に苦勞しない生活環境を整備することは地域間格差を防ぎ、交流人口の増加を



横山地区流雪溝の操作場

はかり安全・安心の町づくりになります。町は県内で最も流雪溝整備を順調に進めている自治体になっています。

平成21年度事業については、さらに区長への説明や資料の提示をするつもりです。座談会などで皆さんの理解を得ていきます。